

コスモス

— ふれあい宇宙 —

NO. 5



吾輩は大である	_____	鈴木 武男
一寸一言	_____	鈴木 武男
過失の訂正	_____	中根久美子
Books	_____	中根久美子
EGO	_____	中根 豊

吾輩は大である

1
今年ハハハでも雪が多く、四月の中旬になつてようやく雪も無くなつてきた。すると、もうその下には青い草が芽を出して、日、一日とその青さを増している。枯草の中の青草が段々と多くなり、四、五日するとピツクリするぐらい青草が多くなり、枯草が段々と目立たなくなると、自然界の新旧交替は少しづつ着実にそして無理なくスムーズに変化している。ヒバリの声も三日程前に聞いた。春が確実に、というより地球がそれだけ運行移動したという事である。そして今日あたりは五時半を過ぎてもまだ太陽は沈まない。日が延びたな一と思つが、これとて地球が時速何千キロのスピードで動いているからである。自分達が住んでいるこの地球の本当の姿や動きという大切な事や、一番可愛いい自分の身体の中の働きや文化などという最も肝心な事には大變に無である

我我々のだ……などと吾輩も哲學的想念にひたつていると、どうも土の中からモグウの匂いがプンプンしてきて地中をひうかきまわし本日ハ二匹も収穫があつたが彼に叱られ口の中から出した。今日は彼らへGAPの友達へのよく使つゝ宇宙とか、宇宙的とかについて一寸考えてみた。これがわかつていゝ様で突然と言つていゝ事がよくある。宇宙と言へば何か自分が居るへ地球、所以外の遠い彼方ばかりを考へがちであるが、私達の住んでゐるこの地球も当然のことながら宇宙の中の一つの星であらば、例えば宇宙の諸法則なども当然この地球上での我々の生活上に重大な法則である。したがつてこの宇宙の法則を充分マスターしないことには、本當の生き方も出来ないのはあたりまえのことである。その意味で「宇宙」と云つた時、私は特に二つの事が大切ではないかと思つた。その1は、宇宙というのは分割

した個、私、己とか、特別、別格、そこだけなどという事は無く、有るのは全体とか、平等、一体、総てなどであつて、例えば個人の努力に対して特に言々とか、特別に自分だけの様な事は無いという事ではないでしようか。今回はその1の事ではなく第2が重要だと思つたのである。その2というのは「調和」「バランス」といふ事である。「宇宙」は完全であると言われ、それが調和がとれていゝからで完全調和とも言えるのではないだろうか。広い宇宙の中で数知れない程の星や、物質、原子などが永遠に活動してゐるのもバランスがとれてゐるからこそ、惑星、太陽系、銀河系、島宇宙などなどが秩序を持って運行し、動いてゐるからこそ、我々もこの地球上で生きてゐるのだから。その様なマウロ的だけでなく、小宇宙と言われ、私達の肉体内においてこの調和、バランスが総てにおいて行き渡つてゐる

現代の医学でこの事は色色、証明されている。互いに相反する力が充分に働いて、調和されているからこそ、私達は生きてゐる」と言う事であり、いつたこのバランスが崩れた時が、病氣というアンバランスな状態となる。そして精神と肉体のアンバランスは悲劇を生むのである。

総てのものが存在しているという事は、すなわち調和されているからこそ存在しているのだから、調和されていないものは、やがて無となつてしまふと言つても過言ではない。自然の状態とは調和された状態で、私達は本来はこの様な調和のついた自然の状態であるべきが、セックスマインドによつてこの自然をやがめたり、欲の為に過ぎたる生活などによつて、自からこのバランスを乱しているのである。我々がバランスのとれた人間になる事は、ただ人格的問題だけでなく、本當に創造主の意志を表現するための人間であるならば、このアンバランスな状態をくり

返している様では、それこそ、
「生かされる」事も出来なくなり
永遠に滅びる事になつてしまふ
のだと、ブラザーズは警告して
いるのではないでしようか。

宇宙飛行士達は十人が十人、
宇宙は美しい。宇宙から見た地
球は何と美しいかと云つてい
る。大変な精力的インパクトを
受けているのも、考えてみれば
これこそ宇宙が、地球が、調和
してバランスをされている姿の為
に驚嘆しているのではないだろ
う。

絵を描く場合でも、いくら赤
色が奇麗だといつて赤色だけで
は絵にはならない。色色な色が
適正な場所に塗られることによ
つて調和があるからその絵は素
晴らしいと人人に感銘を与える
のである。

真・善・美という言葉がある
が、真は眞理（自然）であり、
つまり調和という事で、それが
行動として表現されたものが本
當の意味の善となり、その調和
が型になつたときを美というの

ではないだろうか。そしてその
反対の偽・悪・醜とは不調和
アンバランスの状態を表わして
いるのです。

今の地球は総てにこのアンバ
ランスな状態である。経済（金）
で総てが計られ、評価され、
物質にかたよつてゐる。したが
つて世の中は病・貧・争などが
充滿している。が、この地球も
バランス良く調和されれば、健
富・和の世界が出来るはずであ
る。

「調和が行なわれれば調和と
なり、不調和が行なわれれば不
調和が起きる」とが、大調和し
ていることである」と昔々んだ
事がある。人の目（セックスマイ
ンド）で見れば不調和と見える
事も、大きな目（宇宙の意識）
で見れば、それは原因と結果の
法則通り調和しているのではな
いだろうか。これこそ「宇宙」
の姿である。

では、どうすれば調和された
バランスの良い宇宙人になれる
のだろうか？それは調和され
バランスのとれている自分自身

の中を良く見つめれば解決出来るはずである。

*** 雑誌ニコーン五月号の中に「細菌の世界」というのが書いてある。その中で「人間の体、特に外界と接する事の多い部分には、多くの細菌が常に住みついていて、この様な細菌を常在細菌とよんでいる。健康な人の場合は、常在細菌が病気を引き起こすことはなく、人と常在細菌とはバランスを保って存在している。しかし体力の低下などにより感染を防御する機構が支障をきたしたりすると、常在細菌のあるものが異常に増殖し「アンバランス」感染症の原因となることがある。」私達の肉体の中でこの様にミクロ的分野でもきちんとバランスがとれているのが普通の状態であるが、自ずからの原因でそのバランスを崩す事によって、病気というアンバランスな状態をつくっているのである。***

作・鈴木 武男

チヨットヒトコト 一寸一言

鈴木 武男

「アフリカの飢餓を救え」の声が高まっている。アフリカ南部のモザンビーク政府は一年から水枯れ、食糧不足のため、約十万人の人が餓死した事を認めている。いや、実際はそんなものではない、十七万人におよぶという推定もある。

一年前の話だが「ルワンダ」難民の老人たち数十人が殺虫剤を飲んで集団自殺をした」という記事があった。乏しい食糧を少しでも子供たちに分け与えるために自ら「口減し」を計ったのだという。

そのような状況に人々を追いつめる飢餓が、今アフリカ各地にひろまっている。国連アフリカ経済委員会では、アフリカの人口の三分の一にあたる一億五千万人が、ひんばつの影響を受けており、今回の干害は今世紀最悪

のものという調査結果をまとめた。

食糧を求めて給食センターに集まる子供たちは顔がむくみ、腹が異常にふくらみ、栄養失調の特徴をみせている。農民は手持ちのトウモロコシやコーリヤンを食べ尽くし、飢餓と闘いながら五十キロも百キロも離れた給食センターまで歩いてくる。たどりつくと同時に息を引きとるものもいたそうだ……

—— 朝日新聞 S59・4・6

天声人語より——

これが同じ地球上で数十時間で行く事が出来る近い国の出来事である。同じ地球人として私達ももつとも、と関心を持つべきではないだろうか。我々地球人の根柢の九十九・九%は自己又はエゴに満ちた状態にいるという。自分の事に関する事のみに関心をもち、それ以外の事は逆に関心がない。九十九・九%は他人の事や全体の事、世界的な事に無関心でいるという事になる。恥かしい限り。

* * * * *

週刊誌の中で、日米農産物交渉云々とあったが、そんな事より「大地が死滅する」と警告している日本自然観察家、福岡正信氏は、「自然とは何か、それをじっくり考え直さなければ土は生き返らない。いま農地が荒廃しているという現象は、アメリカでも日本でも、人間が誤った科学を取り入れた結果です。それは自分たちの文明が行き詰った事を意味している」と、また東京農大の山根一郎教授も、メソポタミア文明が滅んだ原因の一つは、農業を疎かにしたためです」と語っている。

「生命の科学」第五課に、過失の訂正についてのべてある。「重要なのはなるべく早く過失に気づいてそれを訂正することです。なぜなら人は言葉または交際によって自分に適している物を見失うなれば、それを発見するのに数年、数世紀を要するからです」と。

人間とは、いや地球人とは、往々にして自分の否を認めない。それよりも先に自分が何をしているのかを理解していないことの方が多い。

そしてその過失に気付くものならそれを悔いとして懐の中に収めてしまふか、平気直って理由づけをして再びその道を歩いていくか。

しかし先程書いた様にその訂正を長びかせる程に自分の受けるレッスンは困難を来たしてくる。苦しさのあまりその場を避

過失の訂正

中根 久美子

げ出して誰れも知らない所へ行けば全て新しくやり直せるのではないかと思ふ。しかし環境を変えても身なりを変えてもカルマの法則によつて過失の訂正のための新しい型でレッスンは始まるのである。

そんな時いつも私はマゲダラのマリヤを思い出す。娼婦という地の底をほうような生活からイエスに出逢つたことで真に生まれ変わりその後イエスと共に奉仕のために生きる女性となる。

過失の訂正とは過去の自分を卑下し否定することではない。何故に人を、自分を傷付けるに致つたのかを分析し、二度と同じ過ちを犯さないことだ。そして一番大切なことはマゲダラのマリヤのように意識に目覚め、今私達が學びつつある宇宙的な生き方を目指すことではないかと思ふ。

数々の体験は過失をも含め、本来創造主と与えられた真の姿にたち帰るために必要なし（6ページへ続く）

本書には数あるケイシー・リーディングの中でも最も実用的な情報のいくつかが含まれている。ケイシーの観点からすれば、毎日の食事こそ、この地上界での体養生において幸福に生きるためににはどうしても欠くことのできない要件の一つなのである。ケイシーの主要なテーマはこうである。要するに「人間の身体は魂の住まう神殿なのである」。たいていの場合、魂は健やかなる身体にあってこそ、一層大きな奉仕を行なうことができるものである。

ケイシーにフイジカル（身体に關する）・リーディングを依頼した人々はほぼ例外なく全員が食事に関する助言を与えられていた。またライフ・人生活に關する・リーディングを依頼した人々の多くも、各自に合った適切な食物を取るよう教示されている。こうした事実は、英知というものがいかに並はずれた広がりを持つものである、その広がりなりを見れば身体に魂が互いに密接に關係し合

る広範囲なリーディング情報から特にえりすぐったものが収められていた。

その中で基本的原理として次のようにのべられている。『各々の魂は生ける神の住まう神殿である。それ故にほかならぬ身体そのもののためにもっと身体に心を配るがよい。要するに身

Books

「エドガ・ケイシーの健康食」

発行所 たま出版

ったものであり食物の摂取がそのまゝ一つの重大な要因である。ことを理解することができる。が本書では實際に何らかの疾患に苦しむ人々に与えられたリーディングに由来する食生活への提言が省いてある。その代りに、通常の食事、言い換えれば健康な人々のための食事に関する

体が靈的真理の顕現のためのよりよい通路（チャンネル）になるように心に配ることだ。自分が食べたもののだけでなく、心に思ったことから、強力な衝動が生じてくるのである。そしてそれは、食べたり心に思ったりするものに対して自分が取った行為からも生ずるのだ。更にそれは精神的かつ靈的に消化吸収したもののからも生ずるのである。と。食物の持つ各栄養素言々よりも食事の意味がいろいろと書かれてある。

我々は食物が体内に吸収されるのどのような型で身体に作用するのかわかり難く理解していない。また逆に健康を重んじるあまりにはやりの健康書などに幻惑され、人体に害のあるものとして一際口にしないなどといったことをする。しかしこの書においてはあくまでもほとんどに「という箇所が沢山のべられている。あくまでもバランスの問題なのだ。そして食事をする時の我々の精神が食物以上に健康へと影響を与えているのである。

E G O

中根 豊

- 傲慢 高ぶって人をあなどり見く
づ態度であること。
- 非難 欠点や過ちなどを責めとが
めること。
- 嫉妬 他人が自分よりすぐれてい
ることに對してのうらみね
たむこと。
- 恐怖 恐れること。
- 怠惰 なまけて、だらしない様子。
- 憎悪 にくむこと。きらうこと。
- 疑惑 本当かどうか信用できない
と思つこと。
- 孤独 助けが得られず、ひとり立
ちすること。
- 不安

- 不満足 気がかりな状態。安心でき
ない様。
満足でないこと。あきたり
ないこと。
- 怒り おこること。はらだち。い
きどおり。
- 焦り せいて気をもむこと。いら
だち。
- 自己憐憫 自分自身をふびんに思つこ
と。
- 不正 正しくないこと。不義、正
当、正直でないこと。
- 利己 自分だけの利益をはかるこ
と。
- 自尊 自分で自分をえらいと思
ひこむこと。
- 物欲 金銭、物品などに対する欲
ち。
- 拘り ちやつとしたことにとらわ
れること。

* * * * *

エゴを支配する道を進むのは
容易ではありません。
「私の意志ではなく、あなた
の（創造主の）意志がなされる
のです」と喜んで言えるように
なるまでには、人間はたびたび
個人的苦痛という暗黒の夜を数
時間、数日、または数ヶ月もす
ごしなから、肉体人間のエゴと
闘わねばなりません。
しかもそれまでに人間は何度
叫ぶことでしょうか。「ああ、父
よ、この苦しみを除きたまえ」
と。

（タページからの続き）
ンにならている。そして忘れて
ならないことは、本人にとつて
苦しむためのものではなく出来
うるベキレッスンのものだ。この
地球にあり他の人々と仲良く調
和して生きるためにも私達は拘
りなく、もつともつと多くのこ
とを学ばなくてはならないと思
う。